

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	白血球の中で最も少なく、研究が遅れている好塩基球の分離 (密度勾配連続細胞分離法による好塩基球の分離、濃縮)
研究期間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月
研究機関名	愛知医科大学 生理学講座
研究責任者職氏名	シニア講師 塩野裕之

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

白血球にはリンパ球、好中球等があり、生体防御機構を担っています。その中で好塩基球は約 0.5%程度しか存在せず、その機能の解明は遅れています。近年、好塩基球欠損モデルマウスが開発され、喘息などアレルギー疾患（抗原抗体反応等により発症）における好塩基球の新しい役割が報告されました。しかし、ヒトの好塩基球は抗原抗体反応を利用して分離されることが多く、ヒトの好塩基球を、抗体を使用せずに「白血球除去工程後のフィルター」から分離できれば、より多くの施設で好塩基球の研究が可能となります。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：白血球除去工程後のフィルター

献血血液等の情報：なし

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

「白血球除去工程後のフィルター」に生理食塩水等を逆流させ、白血球を回収します。我々が開発した「密度勾配連続細胞分離法」によって、白血球を 1.060g/mL、1.065g/mL、1.071mg/mL、1.074g/mL、1.080g/mL 等 5 つの分画に分離します。好塩基球だけを分離、濃縮できるように密度勾配をいろいろ組み合わせて最適な分離条件を検討します。分離した好塩基球は特殊な染色をして、顕微鏡でその形態を確認します。また、抗 IgE 抗体等を使用して、抗原抗体反応等の機能を調査します。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記 5 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

29J0007

本研究に関する問い合わせ先

所属	愛知医科大学 生理学講座
担当者	塩野裕之
電話	0561-62-3311 内線 12258
Mail	shiono-h@aichi-med-u.ac.jp